

林芙美子文学賞

はやしふみこ

作品募集

● 最終選考委員 ●



撮影:三原久明

井上 荒野



撮影:三原久明

角田 光代



川上 未映子

主催／北九州市 協力／朝日新聞出版

「林芙美子文学賞」創設にあたって

「心を噴きあげるようないい作品を書きたい」と願った林芙美子は、生涯庶民に寄り添い、庶民的作家として昭和の激動期を駆け抜きました。

林芙美子は1903年、行商人の子どもとして門司に生まれま
す(下関誕生説あり)。その後、尾道の高等女学校を卒業して
上京。関東大震災や世界恐慌による不景気で定職にも就け
ず職を転々とするなか、彼女を支えたのは書くことでした。

「書いている時が、私の賑やかな時間であった。男に捨てら
れた事も忘れたし、金のない事も、飢えている事も忘れた」と。
このころに書いた「放浪記」が思いがけずベストセラーとなり、
その印税で欧州にも行きますが、時は日中戦争から太平洋戦
争へと向かう暗い時代でした。

「ペン部隊」の一員として従軍しますが、敗戦。庶民的心情
から戦争協力を惜しまなかった過去への自責と呵責の念が、
時代の証言者としてペンを執らせませす。

戦後の悲惨な現実と、人間の過酷な運命を描きながらも、
その作風は生の深みに思いを潜め、しみじみと味わい深いも
のとなっていました。

ひたすら書き続けた芙美子は1951年6月28日急逝。47歳。

芙美子の作品は、時代や運命に翻弄されながらもたくましく
生きようとする人々を支え、勇気づけ、今日まで読まれ続けてい
ます。

文学の力を信じて、林芙美子文学賞を創設しました。

原稿送り先・お問い合わせ

〒803-0813 北九州市小倉北区内4-1
北九州市立文学館「林芙美子文学賞」係
TEL.093-571-1505 FAX.093-571-1525

林芙美子 文学賞 検索

選考に関するお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

北九州市印刷物登録番号 第2310021C号

林芙美子は

「放浪記」や「浮雲」などの傑作のほか、
「清貧の書」「晩菊」「骨」など
珠玉の短編小説を遺しました。

その林芙美子にちなみ、
2014年(平成26年)、中・短編作品を対象とした
「林芙美子文学賞」を創設しました。

この文学賞をきっかけとして、
新たな文学の才能が世に羽ばたくことを期待し、
広く全国から作品を募集するものです。



林芙美子

ヨーロッパから帰国後転居した、下落合の和洋式洋館にて〔昭和7年頃〕



募 集 要 項

文芸の領域を広げる、才気にあふれた作品を期待します。その形式については問いません。

応募資格

- 年齢、職業、国籍は問いません。

応募規定

- 日本語で書かれたオリジナルの未発表作品に限ります。
(ただし、第9回林芙美子文学賞の締切以降、同人雑誌など、商業出版ではない形で発表された活字原稿は、選考の対象とします)
- 原稿枚数は横長縦書きで、下記のとおりとします。

手書きの場合	400字詰原稿用紙で70枚以上120枚以内。読みやすい字で書いてください。鉛筆書きの原稿は不可とします。
ワープロの場合	原稿用紙を用いず、横長A4サイズの白紙に40字×30行として印字し、400字詰原稿用紙換算枚数を記入のこと。

- 応募作品には、400字以内のあらすじをつけてください(あらすじは、原稿枚数には含みません)。
- 本文原稿には通し番号(ページ数)を入れ、クリップまたは紐で綴じてください(ホッチキス留めは不可)。
- 同封の応募用紙に必要事項を記入の上、作品・あらすじと一緒に送ってください。
用紙がない場合は、作品に表紙をつけ、①題名、②氏名(ペンネーム使用の場合は本名を書き添えてください)、③生年月日、④住所、⑤電話番号、⑥E-Mailアドレス、⑦略歴(学歴、職歴、文筆歴)、⑧原稿枚数を記入してください。
(題名、氏名にはふりがなをつけてください)

応募規定を満たしていない作品は、規定外とし、選考の対象にいたしません。

募集要項及び応募用紙は北九州市立文学館のホームページからもダウンロードできます。
<https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>



応募締切

令和5年9月13日(水) ※当日消印有効

賞

大賞(1編) 賞金100万円 「小説トリッパー」(朝日新聞出版)に作品掲載
佳作(数編) 賞金10万円

発表

- 受賞作品は令和6年1月下旬に発表予定です。選考結果は、北九州市立文学館ホームページで発表します。
なお、受賞者には直接通知いたします。

注意事項

- 受賞作品の著作権(著作権法第27条及び第28条の権利も含む。)は、北九州市に帰属します。受賞作品の出版等については、北九州市が利用を許諾し、条件を定めます。
- 応募作品は返却しません。
- 応募後の内容変更は受け付けません。
- 作品の選考についてのお問い合わせには応じられません。
- 応募された方の個人情報については、本文学賞に関するもの以外には使用しません。
- 二重投稿はご遠慮ください。
- 事前選考(一次～三次)通過作品の題名、氏名(ペンネーム)を北九州市立文学館ホームページで発表します。二次選考通過作品の題名、氏名(ペンネーム)は、「小説トリッパー」にも掲載します。

最終選考委員より

井上 荒野

Inoue Areno

ほかの誰でもない、あなたがそれを書く意味。書かなければならない意味。それが伝わってくる小説を読みたいです。求めているのは言うまでもなく実体験などではなく、小説とあなたの心の奥底とを繋ぐ通路です。どんなに荒唐無稽でも、シニカルでも残酷でも、ハッピーエンドでもバッドエンドでも、小説となるためには、その通路が必要です。まずは奥底を覗き込む勇気を。そして、あなたがすでにわかっていることは、私もたいていすでにわかっています。わかっていることだけを上手に書いてあってもつまらないです。わからないから書くのです。そして私は答えを教えてください。答えを知るために奮闘している小説を読みたいです。

2008年「切羽へ」で直木賞受賞。ほか、「潤一」で島清恋愛文学賞、「そこへ行くな」で中央公論文芸賞、「赤へ」で柴田錬三郎賞、「その話は今日はやめておきましょう」で織田作之助賞を受賞。父・井上光晴と母、そして瀬戸内寂聴との三角関係を描いた「あちらにいる鬼」が話題に。最新作は「僕の女を探しているんだ」。

角田 光代

Kakuta Mitsuyo

林芙美子のはびやかで正直で、地に足の着いた小説や随筆を書いた作家だと思う。そしていつも、なんだか愉快な感じに新鮮だった。この作家の名前が冠された賞ということで、林芙美子作品をそんなに意識する必要はない。けれどもたったひとつ、この新入文学賞において、林芙美子作品の持つ肝の据わったあたりしきは読みたいと思う。

あたりしきというのは、奇抜さや突飛さとは違う。じゃあ何か、とは言えない。まだ見ぬものだからだ。でも、まだ見ぬものに触れたとき、そのあたりしきに気づく自信はある。自分も書き手のひとりとして、つねにそれを求めているからだ。

2005年「対岸の彼女」で直木賞受賞。ほか、「ロック母」で川端康成文学賞、「八日目の蟬」で中央公論文芸賞、「紙の月」で柴田錬三郎賞、「かなたの子」で泉鏡花文学賞、「私のなかの彼女」で河合隼雄物語賞、「源氏物語」の現代語訳で読売文学賞を受賞。最新作は「タラント」、「ゆうへの食卓」。

川上 未映子

Kawakami Mieko

小説を書く動機と方法は何であってまかまいませんが、「いま、自分じゃないと、この作品は書かれることがなかっただろうな」と心から思えるものを読ませてください。当然のことながら「一般的に素晴らしい小説」というものではなく、「その小説が固有に目指している素晴らしさ」があるだけです。楽しみにしています。

2008年「乳と卵」で芥川賞受賞。ほか、詩集「先端で、さすわさされるわ そらええわ」で中原中也賞、「ヘヴン」で芸術選奨文部科学大臣新人賞および紫式部文学賞、「愛の夢とか」で谷崎潤一郎賞、「あこがれ」で渡辺淳一文学賞、「夏物語」で毎日出版文化賞を受賞。最新作は「春のこわいもの」、「黄色い家」。